

～在ハンガリー日本大使館～

2010年4月

— Monthly Review —

全24頁

政治・経済月報(3月号)

政治・内政

- フィデス他、選挙プログラムを発表。
- 各政党の小選挙区候補、地域・全国比例代表候補の顔ぶれが明らかに。

政治・外交

- V4等の近隣諸国を始めとして首脳・外相会談が活発に行われた。
- イスラエル空軍機の飛行の真相をめぐり、野党フィデスが所轄大臣の辞任を求める事態に発展した。

経済・社会

- 2月の新車乗用車登録台数は、前年同月比56%減の3,043台。
- 最大野党フィデスのオルバーン党首は、4～6年で税金を周辺国の水準まで引下げることを公約。
- 2009年技術革新ランキングにおいてハンガリーはEU27カ国中22位。
- 政府はエネルギー効率の高い家電製品の購入を支援する補助金プログラムを発表。
- 2009年12月～2010年2月の平均失業率が、16年ぶりの記録となる11.4%に。
- MOLは天然ガスの国内での増産を発表。

○インフレ率	(y/y)	(2010年2月)	5.7% (食品：2.1% エネルギー：3.2%)
		(2009年平均)	4.2% (食品：4.4% エネルギー：8.2%)
○賃金上昇率	(y/y)	(2010年1月)	6.5% (民間：5.2% 公的：8.9%)
		(2009年平均)	0.5% (民間：4.3% 公的：-7.9%)
○鉱工業生産	(y/y)	(2010年1月)	+3.4%
		(2009年平均)	-17.7%
○失業率(15-74歳)		(2009年12月～ 2010年2月平均)	11.4%
○政策金利		(2010年3月末)	5.50% (3月30日に0.25%の利下げ)
○10年国債利回り			7.16%
○為替相場	(月中平均)		・1ユーロ = 265.50 フォリント
			・1ドル = 195.67 フォリント
			・1フォリント = 0.46 円

《今月のトピックス》

■ I. 内 政

1. ブダペスト交通会社（BKV）汚職スキャンダル
2. 総選挙：各政党の動き
3. NATOレーダー基地建設問題：最高裁判所で判決
4. ツシュラグ元社会党代議士に懲役8年6ヶ月
5. 「ゼロ乗車券」の導入：ハンガリー国鉄とヴォラーン・グループ

■ II. 外 交

1. EU東方パートナーシップに関するV4拡大外相会合
2. バイナイ首相のポーランド訪問
3. バロゾ欧州委員会委員長のハンガリー訪問
4. バラージュ外相の南米訪問
5. ショーヨム大統領のセルビア訪問
6. パパンドレウ・ギリシャ首相のハンガリー訪問
7. イスラエル空軍機の飛行をめぐる動き
8. ギリシャ・セルビア・クロアチアとの外相会談

■ III. 経 済

1. GK I 社、景気後退は第1四半期で終焉
2. Kopint-Tarki 社、2010年のGDP成長は0.5～1%
3. 2月の新車乗用車登録台数は56%減
4. 個人向け融資条件の厳格化スタート
5. マレブ航空、再国有化の内容が明らかに
6. 2009年の貿易黒字は39.8億ユーロに下方修正
7. オルバーン党首、近隣諸国並みの税金に引下げを公約
8. 元財務相、ユーロ導入は2015年か2016年
9. 財務省、今年のGDP成長率をマイナス0.2%に引上げ
10. 2月のCPIは市場予想を下回り、5.7%に
11. ジェール県の観光開発に16億フォリント
12. EUの技術革新ランキングでハンガリーは22位
13. 1月の建設業生産は前年同月比13.5%減
14. ハンガリーに割当てられたEU補助金の50%以上を確保

15. 政府は外国人農地購入禁止期間の延長をEUに申請
16. 1月のグロス賃金は前年同月比6.5%増
17. ハンガリー政府からの使用済み温暖化ガス排出権売却先は香港企業
18. GKI社、3月の消費者・企業信頼感指数は改善
19. エネルギー効率の高い家電製品の購入支援のための政府補助金
20. GKI社、2010年のGDP成長は停滞
21. IMF、経済は安定しているが更なる努力が必要
22. 2009年の農業生産、10%下落
23. ハンガリーのユーロ導入、近隣国に先んじる
24. 1月の鉱工業生産及び輸出は上昇
25. ハンガリーのネットワーク化対応指数は世界46位
26. エネルギー庁、ガス料金値上げ
27. アース・アワー：国内113市町村で
28. 基準金利、25ペーシス・ポイント引下げて5.5%に
29. 失業率、16年ぶりの高水準
30. MOL、国内での天然ガスを増産
31. M6延長部分の開通

■ IV. その他

- ・月の選挙・支持政党に関する世論調査
- ・月の為替・金利動向
- ・主な出来事

※本資料は当該月間の
ハンガリー紙等の報道
をベースにとりまとめた
ものです。

I. 内 政

1. **ブダペスト交通会社（BKV）汚職スキャンダル**

政治家が絡んだ汚職が注目されているBKVスキャンダルは、警察の捜査と関係者の証言により、次々とその実態が明るみに出てきた。

(1) 4日、ブダペスト警察は、BKV指導部に対して不正かつ不必要な契約の口利きをした疑いで、レロヴィッチ・オットー元社会党広報の聴取及び家宅捜索を行った。調べによると、少なくともBKVと取引先5社との間で13の不正契約が発生し、契約被害総額は2千万フォリントに昇るとされる。

(2) 警察の在宅捜査を受けているバログ・ジョルト元BKV代表代行は、6日付「マジャル・ネムゼト」紙による単独インタビューで、同氏を経由してBKV取引先数社からハジョー・ミクローシュ元ブダペスト副市長に総額7千万フォリントに昇る金銭が不正に流れていた経緯につき証言した。そのうち現金1500万フォリントは、レロヴィッチ元広報の部屋で直接手渡しされたとされる。バログ氏はまた、7日夜のヒールTVの番組内で、ハジョー元副市長から複数の政党へ金銭が流れていた可能性についても言及している。ハジョー元副市長は、一連のBKV背任事件への自身の関与を一貫して否認しているものの、選挙キャンペーンへの更なる負の影響を懸念し、7日社会党を離党した。同元副市長は、今年2月に市議会議員を辞職、4月総選挙への立候補も断念している（既報：当館月報2010年1月号5頁参照）。

(3) 公金の不正運用の疑いで取調べ中のレゲーツイ・ミクローシュBKV元副所長は、24日付「ネープ・サバッチャーグ」紙の取材に対し、ハジョー元副市長周辺政治家から、2-3週間に1度の頻度で「政治的な要求」があり、公共事業入札時の落札手続きの不正によって、多額の裏金が発生していたことを明らかにした。同元副所長は、BKV以外にも、ハンガリー・テレビ（MTV）、ハンガリー郵便、ハンガリー国鉄（MAV）など大型国営・公営企業の多くが、ブダペスト市議会の社会党-SZDSZ連立にとって金のなる木であったとし、両党の政治家たちはBKV資金を自由に操作できる位置にあったと証言している。また、同日付「マジャル・ネムゼト」紙の単独インタビューでは、BKVから週刊誌ホーツィプーやクラブラジオ、MTVなどのメディアへも公金の不正流用があったと述懐している。

(4) 29日付の「マジャル・ネムゼト」紙と「マジャル・ヒールラブ」紙は、デムスキー・ガーボル・ブダペスト市長（SZDSZ）が自宅や別荘などの修繕に必要な人手と費用を首都公共空間整備保全会社（FKF）から調達した疑いについて報じた。

2. **総選挙：各政党の動き**

マスメディアや各社世論調査が数ヶ月来伝えてきたように、フィデスの圧倒的優位は3月に入っても一向に変わらず、同党の過半数以上の議席獲得が確実視されている。党首討論はおろか、政党間で活発な政策論争が展開されることもないまま、盛り上がり欠ける今次総選挙のキャンペーンは終盤戦に突入した。見所は、フィデスが重要法案の可決（憲法改正を含む）に必要となる総議席の3分の2を単独で獲得できるのか、支持率の拮抗する社会党とヨッビクのどちらが国会第2党になるのか、ハンガリー民主フォーラムや「政治の新しい形」といった新旧の小政党が国会に進出できるのか等にほぼ集約されている。

(1) 1848年独立戦争記念日（15日）

1848—49年の市民蜂起ないし対ハプスブルク独立戦争の勃発日を記念して、3月15日、国内各地で関連式典や集会が催された。国会議事堂では文化功労者に対してセーチャーニ勲章とコシュート勲章の授与が行われた。総選挙を4週間後に控え、各政党は市民蜂起ゆかりの地などで集会を開催し、有力政治家たちは挙ってスピーチを行った。

(イ) 与党社会党のメシュテルハージ・アティツラ首相候補は、ピルバックス・カフェ前に集まった聴衆に対し、「社会党は、進歩と自由と連帯を守る民主主義陣営最後の砦となってしまった」と述べ、フィデスとヨッビクの政策が大衆迎撃的であると批判した。

(ロ) フィデスは、ブダ側アティツラ通りのドージャ・ジェルジ像付近で大集会を開催し、現政権のもたらした負の遺産の克服及び民主主義の発展的な実践に向けて、同党は既に準備万端であることをアピールした。オルバーン・ヴィクトル党首、コーシャ・ラヨシュ・デブレツェン市長、ナヴラチッチ・ティボル議員団長ら党の顔が壇上に上がり、大群衆の声援に応えた。

(ハ) バイチイ＝ジリンスキ通りと聖イシュトヴァーン大聖堂の一角にて企画されたヨッビクの集会には、ヴォナ・ガーボル首相候補やモルヴァイ・クリスティナ大統領候補らが登場し、参集した支持者の大喝采を浴びた。

(ニ) 一方、革命記念日を選挙キャンペーンの道具にすることを嫌ったハンガリー民主フォーラム(MDF)は、ヨーカイ広場でボクロシュ首相候補のスピーチを細々と行うに留まり、集まった聴衆はわずか80名程度であった。

(ホ) 本年秋の任期満了をもって市長職からの引退を表明しているデムスキー・ブダペスト市長は、最後の祝賀スピーチを「3月15日」広場で行った。BKV関連の背任疑惑の渦中にある同市長のスピーチを聞こうと200～300名が集った。市長の登場とともに、大挙した聴衆から非難や怒号が飛び交っ

たものの、スピーチ会場の周囲は厳重に柵が張り巡らされ、多数の警備要員が配置されていたため、市長に向けて卵や石が投げられるといった2008年のような事態は回避された。

(2) 小選挙区立候補者の確定と地域比例代表候補名簿の提出（19－22日）

(イ) 各政党の小選挙区立候補予定者の推薦人カード及び地域比例代表候補名簿（以下、「地域リスト」）の提出期間がそれぞれ19日、22日の午後4時に最終期限を迎えた。全国176小選挙区の全てで候補者を擁立できたのは、フィデス＝キリスト教民主国民党（KDNP）の2党連合、社会党、ヨッビクの計3党のみであった。また、右3政党に「政治の新しい形」（LMP）を加えた4政党が全国20比例区（定数152）の全てで地域リストを提出することができたが、LMPの小選挙区立候補確定者数は92名止まりであった。

(ロ) また、自由民主連合（SZDSZ）と選挙協力を行っているMDFは、小選挙区での立候補確定者数が90名（独立候補77名、2党共通候補13名）までしか伸びなかった。比例代表区でも、ショモジ県、ヴァシュ県及びノグラード県で地域リスト提出に最低限必要となる2名以上の小選挙区立候補者の確定に失敗し、最終的に17地域リスト（ブダペスト市を含む）の提出に留まった。この条件において、MDFが所謂5%条項（国会議席獲得には、全国合算で有効比例票全体の5%以上の得票が必要）をクリアして国会入りを果たすためには、リスト提出が叶わなかった3比例区（有権者65万人）で見込めたはずの分を埋め合わせるだけの票を得なくてはならず、同党の国会進出は極めて難しくなった。

(ハ) 上記5政党以外には、「市民運動」（CM）が9比例区、労働者党（かつての共産党の流れを汲む）と社会民主党がともに4比例区、かつての国会内政党であるハンガリー正義・生活党（MIEP）が3比例区でそれぞれ地域リストを提出している。

(3) 全国比例代表候補名簿の提出（23日）

全国比例代表候補名簿（以下、「全国リスト」）の提出が、23日16時をもって最終期限を迎えた。全国リストを提出するには、全国20のうち7比例区以上で地域リストを提出することが必須となっており、今般全国リスト提出の条件を満たしたのは、フィデス＝KDNP、社会党、ヨッビク、LMP、MDF、CMの6党に留まり、1990年以降の総選挙では最低の数字となった。

(4) 各政党の動向

(イ) フィデス

12日、フィデスはオルバーン党首以下全国リスト上位20名及び「国民的課題に向けた政策」と題する選挙プログラムを発表した。著名な支持者からの推薦の辞、オルバーン党首による総論の後、各政策分野を扱った5つの章（経

済・治安・健康・社会保障・民主主義の規範）が続く構成となっている（各章の責任編者は、マトルチ元経済相、ラーザール副議員団長、ペシュティ保健委員会委員、ショルテースKDNP副議員団長、ナヴラチチ議員団長）。「10年間で100万人の新規雇用」や「3500名の警察官の増員」を除くと、具体的な政策についてはほとんど明かされていない。

26日、オルバーン党首は、インフォ・ラジオの電話インタビューに応じ、フィデスが総選挙に勝利した暁には、外務大臣にマルトニ元外相が就任することを表明した。同日、ラーザール副議員団長は、BKVスキャンダルの究明やマレブ航空の民営化再考など、次期フィデス政権が優先的に取り組むべき11項目の課題を発表し、8年間に及んだ社会党政治の清算に向けた意気込みをアピールした。

（ロ）社会党

19日、ジュルチャーニ前首相が所信演説を行った。メシュテルハージ首相候補に声援を送った他、今次選挙プログラムの具体的な中身を明らかにしようとし、フィデスを「国民に嘘をつきながら政権につこうとしている」と皮肉った。また、「極端でラディカルなイデオロギーこそが国を地獄へと陥れる」とヨッビクの国会進出によって齎される弊害と危険性に警鐘を鳴らした。

（ハ）ヨッビク

24日夜、MTVの「選挙2010」に出演したヴォナ党首は、ヨッビクの政策の柱として「治安」、「経済再建」、「政治家犯罪の追及」の3点を上げた。特に、政治家の犯罪については、刑罰を従来の倍にする考えであることを主張した。

（ニ）ハンガリー民主フォーラム（MDF）

SZDSZとの選挙協力のあり方をめぐるMDFの内紛は一向に収まらず、8日、当初2党連携推進派と見られたレーヴァイ・ゾルターンMDFブダペスト支部長は「2党協力にもはや何の意義も見出せなくなっている」と党に対して公然と批判を投げかけた。程無くして、レーヴァイ氏の同職からの解任と党からの除名が発表された。

同氏が今般、見解を180度転換した理由として、首都32小選挙区のうち唯一MDF—SZDSZ共通候補として立候補しているボルジュ・アンドラーシュSZDSZブダペスト支部長にまでBKV背任疑惑（勤務実態を伴わないまま報酬を受け取っていた疑い）が波及したことや、MDF候補の推薦人カード回収や選挙キャンペーンにおいてSZDSZ側の協力が極めて消極的であったことなどが報じられている。

また、全国リストの掲載順を巡って、結党当時からの有力政治家の離党も相次ぎ、同党の空中分解が加速度的に進んでいる。各種世論調査における同党支

持率は、いまや総じて1%付近にまで低迷している。

(ホ)「政治の新しい形」

24日、「政治の新しい形」(LMP)が、「持続可能な未来」、「キャパシティーのある社会」、「進化する民主主義」を三本柱とする選挙プログラムを発表した。2009年2月に結党された同党は、同年6月の欧州議会選挙では議席獲得には届かなかったものの、SZDSZを上回る2.6%の票を集めて存在感を示し、以降も総選挙に向けた地道な運動を展開してきた。総選挙前の各社世論調査では「確実に投票に行く」有権者の間でも3~6%の支持率を安定して示しており、現段階で投票行動が定まっていない有権者を含めた潜在的な支持率も10%程度あるとされる。

3. **NATOレーダー基地建設問題：最高裁判所で判決** (17日)

ペーチ近郊のトゥベシュ山へのNATOレーダー基地建設の許可の正否をめぐって、ペーチ市及び同市民らが政府を相手に訴訟を提起していた件(当館月報2009年12月号6頁参照)で、最高裁判所は17日、建設の合法性を認めた首都裁判所の判決(2009年11月27日)を退けた。これによって、国防省は建設許可の申請手続きを最初からやり直さないかぎり、同地へのレーダー建設に着手することができなくなった。

最高裁の判決は、軍建設当局及び国防相が、同地に基地が建設された場合に周辺環境や住民の健康に及ぼしうる被害状況について専門家の見解を参照しないまま建設を許可した事実(2007年)は、行政側の措置として不十分であったとし、また、首都裁判所での同公判において一般人の傍聴が認められなかったことは違法であるとしている。

4. **ツシュラグ元社会党代議士に懲役8年6ヶ月** (31日)

31日、バーチ・キシュクン県裁判所は、2007年9月に逮捕され、その後詐欺罪で起訴されたツシュラグ・ヤーノシュ元社会党バーチ・キシュクン県連会長に対し、懲役8年6ヶ月の判決を言い渡した。

県検察当局の訴状によると、ツシュラグ元代議士以下15名は共謀して、複数の架空団体への補助金名義で国庫から計7500万フォリントを横領したとされる。ツシュラグに協力した主犯格6名に対しても、延べ41年4ヶ月の実刑が下された。

5. 「ゼロ乗車券」の導入：ハンガリー国鉄とヴォラーン・グループ（1日）

3月より、ハンガリー国鉄（MAV）の国内線、ジュール＝ショプロン＝エーベンフルト鉄道及び全国ヴォラーン・グループが運行する都市間移動バスを利用する際、乗車賃免除対象者（6歳以下の幼児及び65歳以上の年金生活者）に対しても、登録券（regisztrációs jegy. 所謂「ゼロ乗車券」）の入手及び携行が義務化されることになった。右に該当する乗客には、引き続き乗車賃の100%免除規定が適用されるが、今後は窓口やインターネットを通じて「ゼロ乗車券」を入手し、車両利用時にはこれを携帯することが求められる（国鉄に勤務する者及びその家族を除く。）。政府は今般の措置について、「長距離バス・列車の利用者の実数を正確に把握するため」としているが、「ゼロ乗車券」の発給のために年間数百万フォリントが投入されることの費用対効果については、懐疑的な声も上がっている。

II. 外 交

1. EU東方パートナーシップに関するV4拡大外相会合（2日）

2日、ブダペストにおいてEU東方パートナーシップに関するV4外相会合及び拡大外相会合が開催された。

(1) V4外相会合

V4（ハンガリー、チェコ、スロバキア、ポーランド）外相は、東方パートナーシップに関し協力の可能性及び将来の計画等につき協議を行い、共同声明を採択した。共同声明では、民主化プロセス、法治国家及び市場経済の強化のための改革実施に対して、専門知識や経験を提供し、支援することが提案された。また、東方パートナーシップを支援する非EU加盟国も含めて非公式の「友好グループ」を形成することが合意された。

(2) 拡大外相会合

V4の外相の他、東方パートナーシップ6か国（ウクライナ、ベラルーシ、モルドバ、アルメニア、グルジア、アゼルバイジャン）、バルト3国、EU議長国トリオであるスペイン及びベルギー、スウェーデン（東方パートナーシップ共同提案国）の外相、さらにフィーレ拡大・欧州近隣政策担当欧州委員が出席した。拡大会合では、民主主義・市場経済確立への支援、自由貿易協定締結や査証自由化等につき協議された。

2. **バイナイ首相のポーランド訪問** (2日)

2日、バイナイ首相はワルシャワを訪問し、トゥスク・ポーランド首相と会談した。会談では、両国が共通の過去と利益に基づいてEU内で互いに最も近い国であることが確認され、「欧州2020戦略」やエネルギー安全保障、2011年のハンガリー及びポーランドのEU議長国就任等における両国の協力について協議された。また、少数民族問題や人権問題についても話し合われた。

ポーランド訪問中バイナイ首相は、ポーランドの映画監督クシシュトフ・ザヌッシ氏にハンガリー共和国オフィサー十字功労勲章を伝達した。

3. **バローゾ欧州委員会委員長のハンガリー訪問** (3-4日)

3日、欧州人民党(EPP)会合出席のためハンガリーを訪問したバローゾ欧州委員会委員長は、バイナイ首相と会談した。会談では主に「欧州2020戦略」につき協議され、バイナイ首相は、同戦略策定にあたっては地域差異を縮小するために数値化可能な目標を設定することをバローゾ委員長に提案した。さらに、バイナイ首相はハンガリー政府の経済危機対策やハンガリー・スロバキア関係等についてもバローゾ委員長に説明を行った。

4. **バラージュ外相の南米訪問** (9-14日)

9-14日にかけてバラージュ外相は、ブラジル及びアルゼンチンを歴訪した。ハンガリー外相のブラジル及びアルゼンチンへの公式訪問は1997年以来13年ぶり。

(1) ブラジル訪問

(イ) バラージュ外相はアモリン・ブラジル外相と会談し、両国外務省間の政務協議開催合意に署名したほか、ハンガリーとNATOやEUとの関係、V4及びEU議長国としてのハンガリーのイニシアティブについて説明した。また、両外相は、G20の役割や経済危機、気候変動問題等についても協議した。

(ロ) バラージュ外相はジョルジ商工相とも会談し、具体的な協力分野を列挙したリストを先方に提示した。同商工相は、本年、ブラジル実業家代表団がハンガリーを訪問する予定である旨述べた。

(ハ) 公式訪問中、バラージュ外相は、テメル下院議長、アゼレド上院外務委員長等とも会談した。また、リオデジャネイロにおいては、ハンガリー出身のビジネスマンらと面会したほか、外交・国際関係研究所においてEU・ハン

Republic of Hungary

ガリー関係や2011年のハンガリーEU議長国等についての講演会を行った。

(2) アルゼンチン訪問

(イ) バラージュ外相は、タイアナ外相と会談し、オーストリア・ハンガリー二重帝国とアルゼンチンが友好通商航海条約を締結して140周年となることに触れつつ、二国間の貿易・投資の発展の可能性等につき協議した。また、二国間科学技術協力協定に基づく共同研究が順調に実施されていることが確認された。さらに、タイアナ外相は、メルコスール・EU間の自由貿易協議再開の可能性を歓迎する旨述べた。本件については、同じくバラージュ外相と会談したアタナソフ外務委員長からもハンガリーEU議長国期間中の進展に期待が寄せられた。

(ロ) その他、バラージュ外相は国際関係アルゼンチン評議会において講演会を行い、3月15日の革命記念日には在アルゼンチン・ハンガリー大使館で開催されたレセプションに出席した。

5. ショーヨム大統領のセルビア訪問 (12-14日)

(1) 訪問の概要

12-14日、ショーヨム大統領はセルビアのヴォイヴォディナ地方を訪問し、ホルゴシュで行われた聖イシュトヴァーン像(ハンガリー王国の初代国王)の除幕式に出席した他、エグレシ・ヴォイヴォディナ自治州議会議長等と面会、ノビ・サドでタディッチ・セルビア大統領と会談し、ヴォイヴォディナ・ハンガリー連盟の独立記念日式典に出席した(注)。

(2) セルビア訪問中のショーヨム大統領の発言

(イ) 13日、ショーヨム大統領はハンガリー語教育の重要性を強調しつつ、ハンガリーの教科書(ハンガリーで発行された教科書)の使用及びハンガリー語の幼稚園や高等教育施設の拡大を訴え、「セルビアだけでなく、ルーマニアでもスロバキアでも、ハンガリー人は(在住する国の)国語を外国語として学ぶべきである。」と発言した。

(ロ) 15日、これに対してフィツォ・スロバキア首相は、国民が国語をうまく話せないと国の弱体化につながり得るとし、全てのスロバキア国民はスロバキア語を話さなければならず、国内に国語を話さないグループがいてもよいとするのはスロバキア政府として断じて容認することはできない旨反論した。

(注) ショーヨム大統領は、ハンガリーの祝日をハンガリー民族と一緒に祝うことを宣言しており、過去にもこれら祝日には近隣諸国のハンガリー系少数民族の訪問を度々試みている。今回の訪問は3月15日の独立戦争記念日を前に行ったもの。

6. **パパンドレウ・ギリシャ首相のハンガリー訪問**（16日）

16日、パパンドレウ・ギリシャ首相は、ハンガリーを訪問し、バイナイ首相と会談したほか、ブダペスト市内のコルヴィヌス大学でバイナイ首相とともに危機管理に関する講演会を行った。また、カトナ国会議長及び社会党のメシユテルハージ首相候補とも会談した。バイナイ首相との会談では、経済危機や西バルカン諸国のEU加盟、エネルギー問題等について話し合われた。

7. **イスラエル空軍機の飛行をめぐる動き**（17－24日）

(1) 18日、「マジャル・ネムゼト」紙は、17日にイスラエル空軍（IASF）の偵察機2機がハンガリー上空を飛行した旨報道した。これについて国家交通局（NKH）は外務省と協議の上で同2機に許可を与えた旨発表した。国防省報道官は事前に知らされていないと述べた。そこで、野党フィデスの発議により、23日に臨時国防委員会が開催されることとなった。

(2) 臨時国防委員会では、在ハンガリー・イスラエル大使館が外務省経由で飛行許可申請を提出し、本件については国防省及びフェリヘジ空港にも伝達されていたことが明らかになった。また、セケレシュ国防相はイスラエル空軍機の飛行について事前に承知していたと認めた。

(3) さらに、航空交通に関する法律によれば、NKHは諜報当局と事前協議の上で許可を出すこととなっているが、2004年以来そのような事前協議は行われておらず、NKH独自の判断により許可が下りていたことが同委員会において判明した。

(4) 野党フィデスはセケレシュ国防相及びホーニグ運輸・通信・エネルギー相の即時辞職を求めたが、24日、ホーニグ運輸・通信・エネルギー相は、ヴァーゴ-NKH航空交通部長及びその他のNKH職員4名に対する懲戒処分を発表した。

8. **ギリシャ・セルビア・クロアチアとの外相会談**（29－30日）

29日、ハンガリー・セルビア・ギリシャの3カ国外相会談がブダペストにおいて行われた。翌30日には、ハンガリー・セルビア・クロアチアの3カ国外相会談が開催された。

(1) ハンガリー・ギリシャ・セルビア三者会談

Republic of Hungary

29日、バラージュ外相は、ドルツァス・ギリシャ外相及びヤンドロコビッチ・セルビア外相と会談し、セルビアや西バルカン地域の状況、同地域の国々のEU加盟、インフラ網の整備やEUドナウ地域戦略等につき話し合った。

(2) ハンガリー・セルビア・クロアチア三者会談

30日にはバラージュ外相、イエレミッチ・セルビア外相及びヤンドロコビッチ・セルビア外相との三者会談が行われた。バラージュ外相は、ハンガリーが2011年のEU議長国期間中にクロアチアの加盟条約批准手続を開始する予定であることを強調した。また、イエレミッチ外相に対しては、ハンガリーがEU・セルビア安定化・連合協定を早期に批准する用意がある旨述べた。また、三外相は、ドナウ戦略、交通網の連結、環境保護等の分野において、近い将来にも協議を開始することが可能であることを確認した。

III. 経 済

1. **GKI社、景気後退は第1四半期で終焉** (1日)

GKI社（政府寄りシンクタンク）は、ハンガリーの景気後退は2010年の第1四半期に終わる可能性があるとしてエルステ銀行と共同で作成した直近の経済予測で示した。また、2010年は、EU支援によるインフラ開発に大きく助けられ、鉱工業生産がプラス3.5%、投資がプラス3%となると予測した。

2. **Kopint-Tarki社、2010年のGDP成長は0.5~1%** (1日)

経済シンクタンク Kopint-Tarki 社トップ Palocz 氏は、2010年のGDPは0.5~1%成長する可能性があるとして経済社会理事会で述べた。また、同氏は、2010年の平均インフレ率は4.2%で、2014年辺りまでに1~1.5%に低下すると見ている。ユーロ導入は2014年か2015年に可能で、パリテイは270~280とした。

3. **2月の新車乗用車登録台数は56%減** (1日)

ハンガリー輸入自動車ディーラー協会は、2月の新車乗用車登録台数が前年同月比56%減の3,043台となり、1月の54%減より減少幅がやや拡大したと発表した。同協会は、2010年下半期より新車販売が上向き始めると予

測している。

4. **個人向け融資条件の厳格化スタート** (1日)

3月1日より、個人向け融資の条件を厳しくした政令が施行となった。借入金比率 (Loan to Value : 資産総額に対して有利子負債 (借入金等) が占める比率) は、フォリント建ての場合75%、ユーロ建ての場合60%、その他通貨の場合45%までとなる。ファイナンス・リースの場合はそれぞれ80%、65%、50%である。

5. **マレブ航空、再国有化の内容が明らかに** (2日)

2月26日夜にマレブ航空の現株主と政府との間で合意されたマレブ航空の再国有化のための合意内容が明らかとなった。資本を4百万フォリントまで減資した後、新株発行により268.2億フォリントの増資を行う。ハンガリー国家資産管理会社は253.6億フォリントを引き受け、そのうち207億フォリントは現金、46.6億フォリントはデット・エクイティ・スワップによる。残りは AirBridge 社が引き受け、結果として本取引後の株主構成は、ハンガリー政府が95%、AirBridge 社が5%となる。

6. **2009年の貿易黒字は39.8億ユーロに下方修正** (4日)

中央統計局 (KSH) は、2009年の貿易黒字が、速報値の45.7億ユーロから6億ユーロ近く下方修正し、39.8億ユーロとなったと発表した。景気後退により輸出の前年比マイナス18.9%に比べ輸入がマイナス24.7%と大幅に減少したことから、2008年の3.19億ユーロの貿易赤字から急激に改善した。

7. **オルバーン党首、近隣諸国並みの税金に引下げを公約** (8日)

最大野党フィデスのオルバーン党首は、ハンガリー企業家・雇用主連盟 (VOSZ) の会合のなかで、ビジネスに関わる税金を4年以内に、個人への税金を6年以内に地域の周辺国の水準まで引下げる計画であると述べた。また、2012年までにハンガリー資本が過半数を占める会社による入札の落札割合を

フランスやドイツでの自国企業の落札割合に上げること述べた。一方、ユーロ導入時期に関してはコミットメントすることを控え、ユーロ導入の条件が現実的になった時に導入するとした。また、経済調査委員会を設立し、ヴァルガ元財務相がトップに就任して、ハンガリーの経済の現状をすべて把握すると述べた。

8. **元財務相、ユーロ導入は2015年か2016年** (9日)

ヤーライ前国立銀行総裁・元財務相は、ハンガリーは現実的には2015年か2016年にユーロを導入することになると発言した。次期政権は直ちに新予算の準備をし、大幅な減税が必要であるとした。

9. **財務省、今年のGDP成長率をマイナス0.2%に引上げ** (11日)

財務省のカトナ次官は、記者会見で今年のGDP成長率をマイナス0.3%からマイナス0.2%に上方修正した。また、年平均のインフレ率も4.1%から4.3%に修正した。

10. **2月のCPIは市場予想を下回り、5.7%に** (11日)

中央統計局(KSH)は、2月のCPIが1月の6.4%から低下して5.7%となったと発表した。シティのアナリスト予想6.09%、Napi Gazdasag紙調査によるアナリスト予想5.9%を下回った。中央統計局による発表の後、ロンドンの新興市場アナリストは、中央銀行による少なくとも25ベース・ポイントの利下げの余地が広がった、更なる金融緩和は選挙後の財政の行方とフォリント相場のパフォーマンス次第である、とコメントした。

11. **ジェール県の観光開発に16億フォリント** (16日)

地方開発議会によると、ハンガリー西北部のジェール・モション・ショプロン県の観光開発の5つのプロジェクトが16億フォリントを得た。ハンガリーのドナウ川流域西部地域に割当てられた利用可能な総額26億フォリントの3分の2を同県が入手したことになる。この資金は教会修復や国立公園などで使用される。

1 2. **E Uの技術革新ランキングでハンガリーは2 2位** (1 8日)

欧州委員会が取りまとめた2 0 0 9年の技術革新指標調査において、ハンガリーはE U 2 7カ国中2 2位だった。ハンガリーについては、技術革新の実績がE U 2 7カ国平均を下回っていたが、改善率は平均を上回っているとされた。このランキングは2 0 0 1年から毎年作成されている。

1 3. **1月の建設業生産は前年同月比1 3. 5%減** (1 8日)

中央統計局 (K S H) によると、1月の建設業生産が前年同月比- 1 3. 5% (調整前・後共に) となった。2 0 0 9年1 2月は- 6. 2%だった。なお、建設業生産の数値は急激に下落しているものの、高速道路や道路建設などの新規発注件数は増加している。

1 4. **ハンガリーに割当てられたE U補助金の5 0%以上を確保** (1 8日)

E U補助金を利用したハンガリー新国家開発計画について、これまでに応募された約4 5, 0 0 0件のうち1 9, 5 2 9件で、約8, 5 0 0億フォリントのE U補助金を獲得していたことが明らかになった。ハンガリーには、2 0 0 7年から2 0 1 3年の7年間に約6 兆9, 4 3 0億フォリントのE U補助金が割当てられており、これまでにハンガリー開発プロジェクトで総計約3 兆5, 8 1 0億フォリント (割当額の5 0%以上) に上る契約が行われている。

1 5. **政府は外国人農地購入禁止期間の延長をE Uに申請** (1 9日)

ハンガリーは外国人への農地購入の開放を2 0 1 1年まで先延ばしするモラトリアム措置をE U加盟時に受けているが、政府はこのモラトリアム期間の延長を正式にE Uに要請することを発表した。ハンガリーは、農地価格がオーストリアと比較して数倍安価であるとされている。

1 6. **1月のグロス賃金は前年同月比6. 5%増** (1 9日)

中央統計局 (K S H) によると、1月のグロス賃金は前年同月比+ 6. 5%となった。2 0 0 9年1 2月は、± 0%であった。ネット賃金は1 2. 9%増えて

いたが、これは税制変更によるものである。

17. **ハンガリー政府からの使用済み温暖化ガス排出権売却先は香港企業** (22日)

英国サンデータイムズは、ハンガリー環境・水利省の売却した使用済み温暖化ガス排出権（CER）が欧州域内市場において転売された問題に関し、転々売買を経て最終的に欧州の取引所での売却を行ったのは香港のトレーダーであると報じた。同トレーダーは、本件取引により約200万ユーロの利益を得たとされる。当初、環境・水利省の発表では、売却先は日本企業であるとされていた。

欧州域内排出権取引制度（EU-ETS）においては、その目標達成のために使用されたCERの二重使用を防ぐため、使用済みCERの同制度内での転売が禁じられている。今回の事件を受け、取引の行われたブルーネクスト取引所（パリ）はハンガリー環境・水利省との共同プレスリリースで、今後使用済みCERの取引を防ぐための技術的障壁を設けるとしている。

18. **GKI社、3月の消費者・企業信頼感指数は改善** (23日)

GKI社（政府寄り経済シンクタンク）は、3月の消費者・企業信頼感指数が、2月の-22.4ポイントから、-18.6ポイントに上昇し、経済危機前の水準に戻ったとの見込みを示した。3月の企業信頼感指数は、2月の-13.6ポイントから-10.7ポイントに上昇するとした。これは鉱工業部門における改善が反映されたためである。

19. **エネルギー効率の高い家電製品の購入支援のための政府補助金** (23日)

サボー環境・水利相は、エネルギー効率の高い家電製品の購入を支援する総額10億フォリントの政府補助金プログラムを発表した。申し込み可能なのは高齢者、大家族、身体障害者及び登録された失業者で、6万～7万フォリントの補助金を製品購入に充てられる。この制度により10月末までに1万5千世帯に支援が行われる見込み。この補助金は、温暖化ガス排出権の売却益によるものである。

20. **GKI社、2010年のGDP成長は停滞** (24日)

G K I 社（政府寄り経済シンクタンク）は最新の経済予測において、2010年通年では経済は停滞、前年比でプラス成長となるのは同年下半期からとしている。同研究所によれば、今年上半期において鉱工業生産及び輸出は回復するものの、国内消費下落及び失業率悪化はピークに達する。下半期からは若干の経済成長が見込まれ、物価上昇率は緩やかとなる。

2 1. **IMF、経済は安定しているが更なる努力が必要**（24日）

IMFはスタンバイローンに関する5回目のレビューを終え、2009年9月以降引き出されていない融資分を含め、合計21億SDR（32億USD、24億ユーロ相当）の融資分を了承した。ただし、政府はこれを引き出すことはないとしている。IMFはこれまで、当初合意された合計125億ユーロの融資枠のうち約87億ユーロを融資したが、その後政府が、資本市場での資金調達に方針転換したため、第4回目レビュー以降は利用されていない。

また、IMFはこのレビューにおいて、強力な財政引締め策及びグローバル市場における資金調達の容易化により経済は安定しているが、引き続き、厳しい歳出削減、準備金の慎重な運用及び必要な場合に追加措置をとることが重要であるとした。IMFとの収斂プログラムにおいて政府は、2010年、11年及び12年における財政赤字の削減目標値を、それぞれ3.8%、3.0%及び2.5%としている。なおIMFによれば、IMFとフィデスの経済専門家との会合において、フィデスは財政赤字の削減に取り組む意思を示したものの、具体的な目標や施策には触れなかったとしている。

2 2. **2009年の農業生産、10%下落**（26日）

中央統計局（KSH）によれば、2009年の農業生産高は前年比10%下落した。2008年は前年比27%の増加であった。2009年の農産物輸出は6,360億フォリント、輸入は1,580億フォリントで、差し引き4,780億フォリントの黒字となった。

2 3. **ハンガリーのユーロ導入、近隣国に先んじる**（26日）

J P モルガンは最新の調査レポートで、2009年に他国が財政政策を緩和する中でハンガリーは構造的な赤字をGDP比3%程度削減したため、今後赤字を削減する必要のない点で世界でもユニークな地位にあるとした。同行はま

た、各国のユーロ導入時期について、ハンガリー及びブルガリアが2014年、ポーランド及びチェコが2015年、ルーマニアが2017年と見込んでいる。

24. **1月の鉱工業生産及び輸出は上昇**（26日）

中央統計局（KSH）は、1月の鉱工業生産が前年同月比3.4%、鉱工業製品の輸出は13.4%上昇したと発表した。また、ユーロ建てによる物品の輸出は+14.6%、輸入は+2.7%で、2億9千ユーロの黒字となった。ただし、これらの上昇部分の大半は前年の数値が低かったことのベース効果によるものである。逆にベース効果にもかかわらず、建設業生産及び鉱工業製品の国内販売は前年同月比-13.5%及び-12.6%と、それぞれ下落した。

25. **ハンガリーのネットワーク化対応指数は世界46位**（26日）

ハンガリーは、世界経済フォーラムが発表したレポート中の「ネットワーク化対応指数」ランキングにおいて、2009年の41位から下落して46位となった。同フォーラムが調査指標とした項目のうちでハンガリーの評価が高いのは、起業にかかる時間（5位）、コンピュータ及び通信関連機器・サービスの輸入（7位）であった。

26. **エネルギー庁、ガス料金値上げ**（26日）

エネルギー庁は、家庭、小規模事業者及び公的機関向けのガス料金について、4月1日からの値上げを発表した。同庁によれば、今年1月の料金に比べ、これらの消費者向けのガス料金は消費電力量に応じて9.5%~12.0%、平均で10.1%上昇する。

27. **アース・アワー：国内113市町村で**（27日）

27日、ブダペストを含む国内の113市町村で「アース・アワー」（Earth Hour）が実施され、午後8時半からの1時間、主要スポットで装飾照明が一斉に落とされた。同イベントは、2008年以後毎年3月の最終土曜日に、エネルギーの節減や環境・生息地保護の重要性を周知させるという観点から、世界自然保護基金（WWF）のキャンペーンに賛同する世界各地の自治体で催され

ている。ブダペストでは、国会議事堂や芸術宮殿の照明が落とされ、周辺が一時的な闇夜に包まれた。

28. **基準金利、25ベース・ポイント引下げて5.5%に** (29日)

中央銀行は基準金利をさらに25ベース・ポイント下げることと決定し、5.5%とした。市場において今回の利下げはすでに予想されていた。アナリストは、国内需要が引き続き弱く、金融市場におけるギリシャ経済への不安感が払拭されつつあるため、今後更なる利下げが行われ今年中に5.00%となる可能性が高いとしている。今回を含め、中央銀行は2009年7月以降合計400ベース・ポイントの利下げを行ったことになる。

29. **失業率、16年ぶりの高水準** (29日)

中央統計局(KSH)は、15歳から74歳までの2009年12月～2010年2月の平均失業率が、2009年11月～2010年1月の数値(10.8%)を上回り、16年ぶりの記録となる11.4%となったと発表した。同じ年齢層における失業者の数は、11月～1月における数値に比べて23,100人増加した。アナリストは、この春夏に季節的な雇用が開始されるまで失業率の増加は継続すると見込んでいる。失業率は2008年半ばに7.5%で底を打って以降、上昇傾向が続いている。

30. **MOL、国内での天然ガスを増産** (29日)

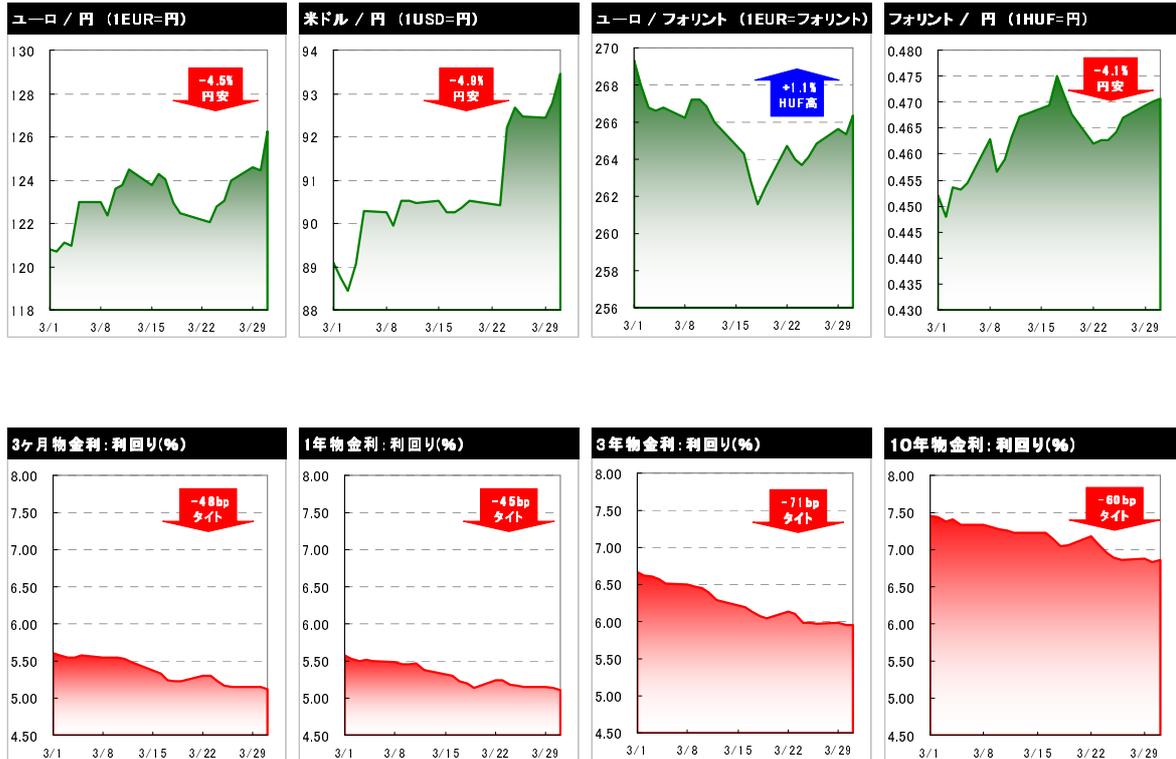
MOLは天然ガスの国内での生産を増加させると発表した。天然ガスの国内生産高はここ数年間減少してきた。現在MOLは年間約23億立方メートルの天然ガスを国内生産している。国内消費量は年間約120～150億立方メートル。増産技術により新たに抽出可能となる埋蔵量は、現在MOLが有する埋蔵量の10%以上に相当する。

31. **M6延長部分の開通** (31日)

建設中であった高速道路M6のドナウーイヴァーロシュ～セークサールド間及びM6/M60のセークサールド～ペーチ間が開通した。

IV. その他

《3月の為替・金利動向》



《3月の選挙・支持政党に関する世論調査》(注)

(1) 支持政党の変遷(確実に投票に行くと回答し、いずれかの政党を選択した者の支持政党)

	(1月)	(2月)	(3月)
(与党)			
社会党(MSZP):	21%	22%	20%
(野党)			
フィデス-ハンガリー市民連盟(FIDESZ):	63%	58%	57%
自由民主連盟(SZDSZ):	1%	1%	1%
ハンガリー民主フォーラム(MDF):	2%	2%	1%
キリスト教民主国民党(KDNP):	0%	0%	0%
(非国会政党)			
政治の新しい形(LMP):	1%	1%	3%
ヨッビク-ハンガリーのために:	12%	14%	17%
その他政党:	0%	2%	1%

(2) 質問事項: 仮に今週日曜日に総選挙があるとすればどの党に投票するか(質問者全員よりの回答)。

(与党)	
社会党(MSZP)	: 12%
(野党)	
フィデス-ハンガリー市民連盟(FIDESZ):	35%
自由民主連盟(SZDSZ)	: 0%
ハンガリー民主フォーラム(MDF)	: 1%
キリスト教民主国民党(KDNP)	: 0%
(非国会政党)	
政治の新しい形(LMP)	: 2%
ヨッビク-ハンガリーのために	: 10%
その他政党:	: 2%
わからない、投票しない	: 38%

(注) ソンダ・イプソス社調べ(3月1-8日データ収集、サンプル数: 18歳以上の市民1500人)。

Republic of Hungary

2010年3月の出来事

日	内政	日	外政
1	・ハンガリー国鉄及びヴォラーン社、乗車賃免除の乗客にも利用券(ゼロ乗車券)携帯を義務化。	2	・V4拡大外相会合開催。
3	・【総選挙】ヨッビク、全176小選挙区で立候補に必要な枚数の推薦人カードを回収したと発表。	3-4	・バイナイ首相、ポーランド訪問。
	・リホー・ヨッビク・ビチュケ市支部長が辞任。	4-5	・欧州人民党幹部会合、ブダペストにて開催。
4	・レロヴィッチ社会党元広報、BKV幹部に不正契約を持ちかけた容疑で聴取、家宅搜索。	5-6	・バラージュ外相、EU非公式外相会合(コルドバ)出席。
	・ドゥナケン泥炭地の駐車場建設計画に反対する16の環境団体、オーシャン非買運動を開始。	9-14	・バラージュ外相、ブラジル及びアルゼンチンを歴訪。
7	・ハジョー前ブダペスト副市長、社会党を離党。	10	・カトナ国会議長、ランメルト独連邦議会議長と会談。
8	・レーヴァイMDFブダペスト支部長、SZDSZとの選挙協力を公然と批判、党から除名。	10-12	・バトボルド・モンゴル首相、ハンガリー訪問。
10	・ショーヨム大統領、ホロコースト否定発言禁止法案を承認。	12-14	・ショーヨム大統領、セルビア訪問。
12	・【総選挙】フィデス、全国比例代表候補上位20名と選挙プログラムを発表。	15	・近隣諸国にてハンガリー人コミュニティが革命記念日記念式典を開催。
15	・1848-49年革命記念日。	16	・パパンドレウ・ギリシャ首相、ハンガリー訪問。
18	・キライ・ヨッビク報道官に大麻使用と同性愛疑惑が浮上、引責辞任。	17-20	・ヨシポビッチ・クロアチア大統領、ハンガリー訪問。
19	・【総選挙】推薦人カード回収及び提出期限。	18	・チャールズ英皇太子、ハンガリー訪問。
	・ジュルチャー二前首相、所信演説。	19	・マジダル・ネムゼト紙、イスラエル空軍機のハンガリー領空内飛行につき報じる。
22	・【総選挙】地域比例代表候補名簿提出期限。10党から延べ119名簿の提出。	19	・セーケシュフェールヴァール市、中国長春市と協力協定を締結。
23	・【総選挙】全国比例代表候補名簿提出期限。6党が提出。	22	・バラージュ外相、EU外務理事会及び総務理事会出席。
	・【総選挙】チャポーディ議員(MDFブダペスト小選挙区候補)が離党表明。以後、MDFブダペスト地域リスト受理の可否をめぐり混乱状態に。	23	・ハンガリー・セルビア防衛協力協定署名。
24	・【総選挙】「政治の新しい形」(LMP)、選挙プログラムを発表。	23	・イスラエル空軍機の飛行につき国防委員会開催。
	・【総選挙】首都選挙管理委員会(FVB)、MDF提出のブダペスト比例リストを却下。	24	・マルト二元外相(フィデス)、ラフロフ露外相他と会談。
26	・【総選挙】オルバーン・フィデス党首、次期外務大臣にマルト二元外相の起用を明言。	25-27	・バラージュ外相、モンテネグロ及びアルバニア歴訪。
27	・アース・アワー(20:30~21:30)、ハンガリー国内113市町村で装飾照明が一時的に落とされる。	26	・ケープタウンにV4ハウス開設。
28	・夏時間の開始(AM1:59→3:00)。	29	・ハンガリー・セルビア・ギリシャ外相会談。
29	・【総選挙】最高裁、MDF提出のノグラード県比例リストを却下。	30	・ハンガリー・セルビア・クロアチア外相会談。
30	・【総選挙】最高裁、FVBの決定を覆し、MDFブダペスト比例リストを受理すると判断。	31	・バラージュ外相、マケドニア訪問。
31	・ツシュラグ元社会党国会議員に懲役8年6ヶ月の判決。		

Embassy of Japan in Hungary

1125 Budapest Zalai ut 7. Hungary
TEL :+36-(06)-1-398-3100

E-Mail

政務関係 : political@japanembassy.hu

E-Mail

経済関係 : economic@japanembassy.hu

E-Mail

広報文化関係:culture@japanembassy.hu

E-Mail

領事関係 : consul@japanembassy.hu